

あ山なが るなき城の

歴史トレッキングガイド

かすみ 霞城跡 トレッキング

短時間で急坂を攻め
見事な石塁に臨む

霞城山
標高408m



⑤ 龍ノ口(岩壁に石仏が並んでいる)
▶ 敵が攻めてくると、ここから出た守り神の龍が山に霧をかけて城を隠した、という伝説もある。

霞城跡



高井大室神社

S → G 約1時間コース

S 永福寺 登山口
↓ 約10分
准胝観音
↓ 約10分
山頂
↓ 5分
虎口

石門登山口
約10分 ↓ 約10分
G 永福寺

※古墳館からのコースもありますが、今回は永福寺からのコースを紹介します。



① 准胝観音(木像) ▶ かつては3体あったといわれているが、現在は1体のみ残っている。



② 石垣 ▶ かつて石が豊富にあったと考えられ、平石小口積みが見事な石垣が見られる。



③ 本郭(山頂) ▶ 山頂には、広々とした郭跡があり、見ごたえのある石垣が残っている。



④ 虎口 ▶ 直登しようとする兵の足止めをするために曲げられた石垣で囲われている。

アクセスマップ



ながの山城あるき
トレッキングガイド
WEBサイトはこちら



霞城跡について

別名大室城跡。奇妙山から伸びた尾根が崖となって千曲川に落ち込み、三方は断崖で囲まれた要害堅固な城で、松代町大室を領した大室氏の居城といわれる。松代と北信濃の関門というべき交通の要衝に築かれ、戦国時代のころは、海津城の北方を守護した。龍が出てきて城を霞で覆った伝説とは別に、城主の守り本尊の加護により敵が攻めてくると霞がかかり、攻め難かったことから「霞城」と名づけられたという説もある。



霞城山について

霞城を要する霞城山は標高408m。地元では向山とも呼ばれる。平地との標高差は70mほどで、山全体が岩山となっている。戦国時代としてはめずらしく石垣を多用した山城で、現在も状態の良い遺構を多く残し、貴重である。